





小全山庄志





小倉山庄色紙





武庫川女子大学図書館

昭和59年2月、5日

911.147

Og

247154

德迎

小倉山庄久紙和子

[illegible]

海音山

白

秋

井氏

武庫川學  
院藏書印







何れもをりまゝに人より事ごとく  
 ろれ世の人のまゝに世つりしやとれ  
 何れもをりまゝに人より事ごとく  
 ろれ世の人のまゝに世つりしやとれ  
 何れもをりまゝに人より事ごとく  
 ろれ世の人のまゝに世つりしやとれ

のまきいけらせうくせうけうてはわり  
 此等いふ事いふ事いふ事いふ事  
 事いふ事いふ事いふ事いふ事  
 いふ事いふ事いふ事いふ事  
 ういふ事いふ事いふ事いふ事  
 わる事いふ事いふ事いふ事  
 二つ事いふ事いふ事いふ事  
 さいの事いふ事いふ事いふ事

自人一看像讀柳之序下意相同也異也

おははんあふあふ

新田

像謬斯之序此歌也



天智天皇

秋乃田いづ川り  
ほろくさたるわらふ手て家いえぬが

竹の庵は一月より一月  
竹の庵は一月より一月

結句百利不爲一害  
川穂、うけ ちりを 父也 百利 菜に 倍々 多し あり 以 経より 多 云 天智天皇九剣はッ 存 たり 時 日 常 記 三 有 白 雲 分 三 六

知来々ソサ原可お形事と

一、漢書の文 本はねきりりちて奇なる  
 もあまは皆易月れつひて二二倚序ついでに二二をなすもつたふちのやめ

秋田の北にきすくもすく

[illegible]

幸藏秘  
 なるるるる  
 即ち  
 同奥の  
 向い

[illegible]

王道の所述懐の奇なりけりきききき

木下清之世と胡弓の清之世

世を以て世を以て人々の世を以て世を以て

わふえしけとやんふ事わふ

わが身もくはれぬるに  
たふさ

大徳寺に在りて一十年を過す

[illegible][illegible]

きんぎょ  
ちんぎょ

持統天皇



















まじしきとてふはるのうらりーあんなうー光  
おくりぬーうーもやういふをせむうら山と人  
うーやもとわつとてす人きつうりやうつを  
取とてうーうーうー秋の月とてうーわうよの  
雲ーわつとてやうけふ事ーもはうーたれう  
月うーにやめかりうーうーあうりうー  
うーあやうーうーうーあうし雲うーうーうー  
れうーうーあうーうーうーうーうーうーうー  
うーうーうーうー

小野小

花の色うーうーうーうーうーうーわうーうーうー  
うーうー

まじしきとてふはるのうらりーあんなうー光  
おくりぬーうーもやういふをせむうら山と人  
うーやもとわつとてす人きつうりやうつを  
取とてうーうーうー秋の月とてうーわうよの  
雲ーわつとてやうけふ事ーもはうーたれう  
月うーにやめかりうーうーあうりうー  
うーあやうーうーうーあうし雲うーうーうー  
れうーうーあうーうーうーうーうーうーうー  
うーうーうーうー



人へに思ふへき身はうへをわさう物いふなり  
ゆふとさやうと

蝉丸

是れは行をうへもかゝるもまゝをわさうの  
けしき事きうり金坂の園わんまを  
津よりしきゆふもよさうふんとさうや  
わりとわいふわりのせきよちかみま  
うりかゝるもわかれゆふもゆふきわ  
らやまのいさゝ者立離りゆゆゆ  
つるもやめてんかゝるもせきいふも  
わいさうり万法一如ゆふとさうり

は蟬丸延喜のうりゆふとさうり  
まゝあへあさるもまゝに人のきうり  
是れはゆふとさうりゆふとさうり  
まゝゆふとさうりゆふとさうり

泰議堂

和田は原千馬あゝ湯ね人かき  
是れはゆふとさうりゆふとさうり  
まゝゆふとさうりゆふとさうり  
まゝゆふとさうりゆふとさうり  
まゝゆふとさうりゆふとさうり  
まゝゆふとさうりゆふとさうり  
まゝゆふとさうりゆふとさうり  
まゝゆふとさうりゆふとさうり







[illegible]

河原九太郎

みちのくまのふらりとわたりし  
上は二句をこころにたてり  
かしきやうな

光孝天皇

[illegible]

是ふわからい奇なりあらわさぬの  
はらうとつらういふのうらやま  
らうかーとつらうゆんぬりし  
雪らういふれんじやあらう君  
いふ一ふふらういふ事といふ  
いふ奇のうらやま

中納言行平

くらわれしを及のふれ筆<sup>も</sup>あつたすつやきふと<sup>り</sup>  
 皆奇をせしうれけきうわまりよりうりすきそ  
 うしわれあつたつうりあんといふまう  
 うふやうあつたつうりやそいふわうう也







は難波にやれ大船よりいづこかを  
うりみきしに難波のみきりなり是の  
や部やうひはりやんとなりなり  
物ん物なり一奇のいなりなり  
いゝ人いゝ人ときやなり  
あつてもなりきわなり  
又うきなりなり年月なり  
いゝもいゝなりなりなり  
うらなりなりなり  
いゝなりなりなり  
やゝなりなりなり

しすやと

元良親王

候ぬれ今なり難波なり  
是なりなりなりなり  
まのなりなりなり  
いゝなりなりなり  
いゝなりなりなり  
なりなりなりなり  
なりなりなりなり  
のなりなりなり











三

中幼玄益瓶

源宗正朝臣

空を渡る鳥の如く  
 此の世に生れしを  
 當りては其の本質







わく別々と思ひくわくあひわくは  
しりせしき事わくやとわく也  
古今集いほの奇すれあや後集  
羽院定家隆くくくくくくく  
い奇くくくくくくくくくく  
家定くくくくくくくくくく  
やれくくくく

坂上是則

朝け在明の月くくく吉野の里くく  
世奇くく地の時くくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく

月やんあくくくくくくくく

表道列栞

山月凡のけくくくくくくく  
世奇くくくくくくくくくく  
あくくくくくくくくくく  
せきくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく







事々母のいきなりあつてはうゝに居るけふ人の  
いふくひくも屋をてほめてくれと云ふれ  
この家のわづかきさうにまんまりあるやうな  
物持たせしむるにそりては梅の花とあるを  
ふりかへてうゝにあんないといふことであらね  
なまゝにわづかにありてある人とうゝひいて  
あらう奇のふきあふるゆゑの奇よ  
いせいといふもあつき奇也いふことはいさなり  
けふの世といふなり

清原公成

夏衣なつころももて宵よなるを明あけめると雲くものへはこも月つきをさへ

是るくは夜のしらけの雲のさきとくは  
うりふさきと宵をさかへ明のさきと月を  
さかへさかへと半矢とさかへくは月をさかへ  
くはさかへりさのさかへくはさかへくは雲  
さかへくはさかへくはさかへくはさかへ  
さのさかへくはさかへくはさかへ

文屋朝康

文庫新編  
志々露<sup>つ</sup>ら勝れわ〜秋の野をほめてうねむる花<sup>はな</sup>  
せりぬ〜まきなりわ〜風をいそ<sup>け</sup>  
津ゆきにやわねむるいはあ〜はるかな事  
わり世れとなくもくねいふこそけ奇の



あつ秋の野の所せもまゝもたみらるわ  
この空のわきもきこゆるわのつたわ  
吹さらしにせじさつりあか木草れ空を  
やちりこもれさる多うあまこゝろりもきけい  
まはやくもくろくみこもれつたさきうり

右行

五月廿二日

泰議等

わさねのむすあつたふれわまりてましくき  
上例の席の舞やまふれとしまるくさうな  
りしもたけを思ひぬやうにゆゑはなほ  
せんかきとて思ふなりとも世の人には  
わまりてまふにうとせし一宅家のま  
ふれよわらふとてあらばなほわまり  
秋の夕言い新とてさう

平菖風

あふれとるやうなり、わさぬき物や、しんせいのまへ



此奇を候るわさう也きく人々もまじく世  
うりうあやういふけきいふあふれきや

壬生忠見

忠とて人わつたさきききききききききき  
けきききききききききききききききき  
うりうきききききききききききききき  
けきききききききききききききききき  
一折はまのきききききききききききき

清原元輔

ちきききききききききききききききき  
事きききききききききききききききき

わりんきききききききききききききき  
神とてきききききききききききききき  
いきききききききききききききききき  
うきききききききききききききききき

権中納言敦基

きききききききききききききききき  
人きききききききききききききききき  
わきききききききききききききききき  
きききききききききききききききき







思ふにわづらひてきえみよとてわづ  
わづらひてわづらひてわづらひてわづらひ

曾孫好忠

[illegible]

車  
文  
師

へんてきまゝのうきさし人をもて秋に  
 事なきに河原院（うきはのいん）わかれもやと秋を  
 こふ人々もかやせゆりゆく  
 けりともゆれどやとあねものゆく一  
 世のわが事なす乃屋（のや）ひび  
 わるぬ秋はともかんをあらうり  
 うかたぬといふさうりよう河原院（うきはのいん）のじ  
 とらほきくは奇と見ゆきなり  
 はゆきや人きたきに看（み）るれどもそ  
 い重じりともあらうりやと奇  
 りも事なりとむきやとわきよめり



とまひやうきこひひくゆへ一夢之うきり  
いけい井のわくしうきや

源重之

勢とわくみきりなみはれとのさけ物ばふ  
ふさうこわいさうのわくしうきや  
あきばわ身も目もさうさうき  
ゆれとまひふやうにゆやうきや  
ろくし

大中臣経宣

みき守清さう火ふさうのさけ物ばふ  
清士は太内さうさうのさけ物ばふ

さきさきも席奇也  
わくさうさうし  
かきさきばう  
人うけはじ思ひきり  
かてやうさうのさけ物ばふ  
さうさうさう

藤原義孝

君さうさう  
後物さうのさけ物ばふ  
うきさうさう  
ふわさうさう



まゐりし人などふれりしものあり  
わたりし物ありしものありしものあり  
んたつていさふやうに

藤原実方朝臣

くまにたやうきふも平内をいふものあり  
うも草をたふしうもあつた利をゆかふ  
ふやへ伊をふしうもあつた利をゆかふ  
じゆわきふもあつた利をゆかふ  
ふもあつた利をゆかふ  
ふもあつた利をゆかふ  
ふもあつた利をゆかふ

友原道信朝臣

明わいし言ふ物ふもあつた利をゆかふ  
是を後朝の恵れいふ明わいし言ふ物ふ  
はりうもあつた利をゆかふ  
ふもあつた利をゆかふ  
ふもあつた利をゆかふ  
ふもあつた利をゆかふ

右大将道鑑母

近きはひもあつた利をゆかふ  
事ふり入道格改すいふものあり  
ふもあつた利をゆかふ  
ふもあつた利をゆかふ  
ふもあつた利をゆかふ  
ふもあつた利をゆかふ



是より又文字のまじきつとてかゝりてある  
いふはつらつとてかゝりてあるなり  
うゝの奇いゝとてかゝりてあるなり  
り事天竺のりゝやの伝わつてゐるなり

依田三司母

わが母のりゝ末のりゝかゝりてあるなり  
事書の中用自道隆のりゝちりけるなり  
せわり是をわがもちびの事なり  
これ一紙とてかゝりてあるなり  
そのりゝもかゝりてあるなり  
とてかゝりてあるなり

大納言公任

いふは音のりゝとてかゝりてあるなり  
是は大覚寺のりゝとてかゝりてあるなり  
いふは音のりゝとてかゝりてあるなり  
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
下の名もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

和歌式

わが母のりゝの思ひとてかゝりてあるなり



事つきてあら例あゝあゆりかか人へはり  
のさるやとわりいけらとせりふ人  
をさるゝわがななりつらわん井のなみの  
戸あかんとみんるゝえゆきと  
やもさるわりぬきつゝわがくしあつて  
二三のゝにむりいさきいさき

はま歌

おのれいさるゝ井のなもわがなとせりわがな  
事きゝわがななり友つらとゆり人  
やゝゝゝゆきわがなとせりわがな七月十  
日ゝ月ゝきわがなとせりわがなとせり

我もいさるゝ井のなとせりわがな  
やゝゝゝわがなとせりわがなとせり  
おゝゝゝわがなとせりわがなとせり

大二三位

ありまゝのなとせりわがなとせり  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



わりとまきふかき席の世へうらたのふ  
もつあうていふれんわきまへうれ事なる  
てあうていふれんわきまへうれ事なる  
はうていふれんわきまへうれ事なる  
あうていふれんわきまへうれ事なる  
人となれやうするやあうていふれ事なる  
うらあうていふれんわきまへうれ事なる  
わんとなれやうするやあうていふれ事なる  
る物やうていふれんわきまへうれ事なる

赤染清門

屋上より物を見下すやうにわきまへうれ事なる

此奇わうきやまわきまへうれ事なる  
てあうていふれんわきまへうれ事なる  
うらあうていふれんわきまへうれ事なる  
わんとなれやうするやあうていふれ事なる  
うらあうていふれんわきまへうれ事なる  
あうていふれんわきまへうれ事なる

小式内侍

あうていふれんわきまへうれ事なる  
事なるわきまへうれ事なる  
うらあうていふれんわきまへうれ事なる  
わんとなれやうするやあうていふれ事なる  
うらあうていふれんわきまへうれ事なる  
あうていふれんわきまへうれ事なる







表にあらへて二つみやうとわつる事なり  
あまのうらうらもなへつとぞとぞとぞと  
けつとる多きものゝききやうれん所  
つりやうれ事<sup>てしのまへ</sup>の天生の道とぞいふ  
ふつとあらう道とぞいふとぞいふ  
是とぞいふとぞ

清少納言

和歌のうらやうと音はうらやうとせむ  
事なり大納言<sup>いひしやう</sup>の物なりと内侍の  
みやうとせむとせむとせむとせむ  
あはれとせむとせむとせむとせむ

々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
けつとる多きものゝききやうれん所  
つりやうれ事<sup>てしのまへ</sup>の天生の道とぞいふ  
ふつとあらう道とぞいふとぞいふ  
是とぞいふとぞ



わろのやろの字なり  
いゝの字なり

九  
大  
夫  
道  
雅

今更に只ひ多ええとてなりと人ほくあててお  
けしき伊勢はさしわたりしものなるゆ  
へはあひくわひく事なわやけき  
きくはりしきやけきゆきわくま  
くわくしきありしきわくしきわく  
ふくわくしきわくしきわくしき  
まわくしき

權中納言定賴

ねむいけうはるまゐりてんくにかへれうをせしめ  
 はすろ人丸（まろ）よりきぬぬひ十字路川の町ある  
 つらふあみれけいおきともしもつらふあみれ  
 もあふ奇と世のうらいたふまにわたりてうそ  
 むなりきりえられさふありわさやけのた  
 しきにかりえあらぬりうになくともわれ  
 つみくれはくわあさうさふあふあふあ  
 うらんさんのでうわさうやれはくし  
 とく下あういあわれあうさ

相模

うゝ 俺のゝ 神のゝ わるゝ 出づゝ うちゝ 名ゝ ぞ  
おし



あゝくらん人々をかくれさるるに  
ほのつらなる人々をかくるに  
とらふ人々をかくるに  
うきものくらん人々をかくるに  
わつたにわつたに神々をかくるに  
とらふ人々をかくるに

### 大僧正行号

そなたのあつたにわつたに  
とらふ人々をかくるに  
うきものくらん人々をかくるに  
わつたにわつたに神々をかくるに  
とらふ人々をかくるに

あゝくらん人々をかくるに  
ほのつらなる人々をかくるに  
とらふ人々をかくるに  
うきものくらん人々をかくるに  
わつたにわつたに神々をかくるに  
とらふ人々をかくるに







けしきやゆきをきかぬ  
 のちまきふくあそびか  
 うけいりなかりひる  
 めき月いづ  
 けききききききき  
 けききききききき

能因法解

[illegible]

道  
也  
一  
人  
一  
也

良選法師

ありきやうきつゝあじれいほき命秋のうき  
 なる大いなるわきうねたつてもあやふいなる  
 わりけのふくきあきききやうきいふ  
 ていほきやうきやうきいふあじれい  
 ころもふくきのふきやうきいふ  
 ーありきやうきあききやうきいふ  
 ーいふあききやうきいふあじれい  
 ーいふあききやうきいふあきき  
 ーいふあききやうきいふあきき  
 ーいふあききやうきいふあきき



やゆらやゆきとさるるをふりて ねたふ

大細言経信

くろく 門田の稲葉まつね 幸乃まる屋秋風吹  
吹奇々田家の秋の勢とつるものなりけ  
すんやとてね 昔なるわははるをいかり  
井のやまのいづはく名を秋せうと  
るけつし せをわしとて ねとる なる屋  
いふか ぬりりなれ 中書 ちやうとて  
ゆてい ぬりりなれ 五文字あつとわて  
ね ねなる ねなる ねなる ねなる ねなる

祐子内親王家記序

高きくたははるわはるや 神のねれをまね  
け 奇くたははるわはるや 神のねれをまね  
いふか ぬりりなれ 中書 ちやうとて  
ね ねなる ねなる ねなる ねなる ねなる  
人なりなる ぬのねなる ぬのねなる  
ききききききききききききききききき  
わきききききききききききききききき  
いふか ぬりりなれ 中書 ちやうとて  
ね ねなる ねなる ねなる ねなる ねなる  
ききききききききききききききききき  
わきききききききききききききききき

権中幼玄廷房



[illegible]

後教訓

ふりきり人々をいひあはせしめしむる  
あやかしにわたりてみよといふことあり  
まじく悲しい事いへばゆくりはたし  
とせる山中さうなるときにあらはれ  
うかりかきこえぬものの物ぞと  
あらなり初瀬の山ありといふときまづこ  
そはうらふねともいふべきことあり

[illegible]

基俊

契りて美しきものありきと云ふは、わが心もこれなり  
 申すに、僧都、光定、唯摩、舎利、海師、と云ふけ  
 と云ふものありきと云ふは、わが心もこれなり、清性、金道の  
 大政大臣、と云ふものありきと云ふは、わが心もこれなり、今  
 又、年よりわが心もこれなり、と云ふは、わが心もこれなり、



















ていつに足あはれ夢う醒れてゆくはなふ  
あきとやういふをわたり

疾蓮法師

けし雨の露をまゝのわすれぬまゝのまゝのわすれぬ  
 此奇をわかんずまゝの葉にやれりけし雨の  
 おもひつるまゝ又おもひまゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

一  
 花ききくきりくやうめさのるまきり  
 うかおりのえおれくらのわなをゆきうり  
 さうへいゆふかきうもきりくをみわれ  
 えうかりきくや筆古はくわくことせ  
 皇加門院別當

皇嘉門院別當

誰かえりきりけのこころ然りとて憂ふる事  
 是を極意とてあまのつらき事なり  
 のこころをいふてもわかれしつらき事なり  
 ちなりとわかれしつらき事なり  
 のこころとてきこみ身をつらとてわかれしつらき事なり  
 ゆきあふしつらとてわかれしつらき事なり



男入るんゆふきこや

式子門親王

後日とてくるはるをねまゝあつゝのふりた  
いたまふわまり男成をへり月日とて  
くてをまゝへりねあまふる事さへり  
あやまひひきまのさへるはあねや  
あつゝわつねとてねるなりやまゝあつゝ  
ちけりさへりねすのさへりやけん

殿富門院大輔

んきやれと後日とてねまゝあつゝのふりた  
心きとまのわりの衣さねれやまねるれく

せれとんきやもと後日とてねまゝあつゝ  
あつゝわつねとてねるなりやまゝあつゝ  
わつねとんきやとてねれねるなりや

後京極坊政大臣

まゝとて霜のさへり衣さへりきひきね  
いづれかひきねるなりやまゝあつゝ  
いづれかひきねるなりやまゝあつゝ  
言はれとてあつゝあつゝあつゝあつゝ  
あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝあつゝ  
あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝあつゝ











くそいわれじんまけくふれくをい雷とてえ  
わろくゆりゆ物をあう我力うりきうと  
あうくやまのしもかんきんすう奇とれ

権中納言完家

あぬとすつ浦のうきふ屋やきりかきあは  
まぬをわろのうきとじりし事ふゆし十  
やゆしんうききやとけいあきんもきくを  
ききあはくきりきしうきわろあひの  
あかきあきりあきふきしうきあきき  
うきあきききききききききききき  
ゆりききききききききききききき

あやうき屋やきりあきいけききき  
こききききききききききききき  
はききききききききききききき  
のききききききききききききき  
ききききききききききききき  
後二位家隆

あききききききききききききき  
いけききききききききききききき  
あききききききききききききき  
ゆききききききききききききき  
ゆききききききききききききき  
ゆききききききききききききき











德玉卿



